

10月開催行事

日立支部・県総務委員会 同友会を100倍楽しむ方法2015  
新入会員オリエンテーション



日立支部では10月7日に県総務委員会と共催で、新入会員のオリエンテーションを開催しました。事務局からの同友会の歴史・理念・本質の説明後、入会3年目の日立支部メンバー、エース自動車(株)の斉藤智一さんとsaku-hanaの宇野裕一さんをゲストスピーカーに、コーディネーターに(有)スタンパメカワの滑川裕さんを迎えて、同友会との関わり、入会して感じたその魅力について話していただきました。

宇野さんは発表の中で、「経営者って孤独、同友会に参加して仲間が出来た。経営者の先輩たちの話を聞いて、それが経営に生きていく。同友会で同じ志を持った人と出会って、人の繋がりがあって大事で自分一人では生きられないということを教わった。」

斉藤さんは、「経営という課題に迷っている時に出会ったのが同友会だった。経営指針成文化セミナーは夢と現実を天秤にかけながら仲間と勉強する、経営のことだけを考える時間。今までは目の前のことだけを考えて仕事をしてきた。指針を作ったことで、経営判断の際の大きな材料になっている。」と熱く話してくれました。

滑川さんからの締めの後、県総務委員長の荒井功さんから、「島崎藤村の『人の世に三智あり』これを体現出来るのが同友会だ」という素晴らしい総括がありました。

レポート 日立支部 滑川裕さん

県央海浜支部 プチ例会



県央海浜支部10月例会は、『同友会のここがキレイ』と題してのプチ例会でした。奇抜なタイトルでしたが、問題点・課題など様々な意見が出て、KJ法を用いて課題にたどり着くことが出来、『同友会・支部の経営指針』が、明確になぜ必要なのかを全員が納得した形になりました。

KJ法を学ぶこともできましたし、会社にとって経営指針がなぜ必要と言われているのかもよく理解できました。

自社に持ち帰り、KJ法を試してみるという声も上がりました。

KJ法にてまとめた資料は事務局に保管してありますので、ぜひご覧いただけたらと思います。

レポート 県央海浜支部 矢内久子さん

水戸支部・県総務委員会 同友会オリエンテーション



10月29日に水戸支部と県総務委員会の共催でオリエンテーションが開催され、水戸支部の昨年度からの新入会員の方を中心にベテラン会員の方、他支部の方、またオブザーバーの方にも多数参加いただきました。

まず、事務局から中小企業家同友会がどのように誕生したのか、その歴史や同友会の理念・概要について説明があり、同友会の予備知識を学んで頂いた上で、水戸支部の総務委員著である(株)マルワの小松崎裕康さんから、同友会の経営指針成文化セミナーと外部の研修の違いはどのようなものか、経営指針成文化セミナーをどのように経営に活かしていくのか、という視点から同友会の研修の魅力について、話して頂きました。

また、2人目のプレゼンターとして、同じく水戸支部総務副委員長である石井邦明デザインスタジオ一級建築士事務所の石井邦明さんから、同友会入会前と入会后で経営者としての考え方がどう変わったか、そしてその魅力と活用方法について話していただきました。

最後に県総務委員長である荒井タイヤの荒井功さんの総括で締めいただき、2名の入会表明もあり、非常に充実した内容で幕を閉じました。

レポート 水戸支部 今瀬保男さん

第5回 いばらき中小企業経営フォーラム 2015

10月23日(金) ホテルグランド東雲にて  
「いばらき中小企業経営フォーラム」が開催されました。



第1分科会 《今こそ経営には愛が必要だ》社員と地域を愛し続ける経営は、常に変革の連続だった



報告者: 森 秀男さん  
(株)山森 会長 日立支部会員

材木屋を創業して、多くの業界初の取組みを行い、高度経済成長の時代の波もあって売り上げ好調。だが、日立という企業城下町であるが故の紆余曲折があつての50年だった。根底にあるのは「木が好き。木を信じている」ということ。自分の商品に惚れているから幸せ。

「愛している」と言えるのは「木」と「奥さん」と「日立」。中小企業にだって地域づくりには参加できる。地域奉仕には金銭・労力・能力奉仕の3つ。ある物を活用して、みんなで連携すればいい。奉仕は意欲の表れ、使命感であり本能。先人観と意識が留まらせているだけ。力強く地域貢献を謳う姿がとても印象的であり、人が惹きつけられ、ついていきたいと思いますと思わせる姿を感じさせる。社員には信じて任せる。人は給料だけで働くのではない。徹底して勉強会をしてKJ法で自分で答えを導き出す。無機物ばかりな環境へ向かう現代だが人には木・有機物が必要と信じている。木の語り部になっていきたい。

第2分科会 《経営指針成文化セミナー奮闘記》「共に学び共に育ちあう」ということ



報告者: 大畑 義則さん  
ノエビアビューティースタジオエヌズ オーナー  
日立支部会員

車一台での化粧品の訪問販売から始めて日立多賀にサロンを開業し27年。今では店舗販売、エステサロンだけでなく幅広い事業を展開する。

同友会に入会したのは2013年、経営指針成文化セミナーに参加し1年をかけて「経営理念」「行動指針」「五大精神」を作成した。作成した経営理念は「キレイを通してたくさんの人の人生に笑顔と喜びを提供する」。

真剣に向き合って作成する中、自分の役割、会社の存在意義が明確になった。行動指針、五大精神も同時に作成、特に一緒に働く社員、スタッフへの幸せをまず大事にすることでお客様の幸せにつながると考える。そして地域、社会貢献へとつながる経営者としての愛を伝える。

大畑さんの「10年後のある1日の物語」はスタッフのひとりをも主人公にした物語。スタッフへ時には厳しくも正面から向き合うことで一生の関係を築いていく。周りの人みんなが笑顔であふれている。見ているだけで幸せな気持ちになる。経営指針を作成することで未来が明確になっていくことを目の当たりにさせて頂いた。

第3分科会 《計画的事業承継、その過程で気づいた大切なこと》理念の理解が未来を創る



報告者: 八巻 大介さん  
(株)つくば食品 代表取締役 県西支部会員

20歳で父親の会社に入社し、なんとなく会社継ぐのかな、と考えながら働いていただけだった。しかし、他社へ出向して意識が変わる。人格を演じることで変革がおきた。自分が変わると、事業承継への覚悟ができた。

5年をかけ事業承継を計画することが出来、恵まれた環境での承継だったが、いざ始めてみるとそううまくはいかない。自分は変わったつもりでも社員・幹部には伝わっていない。組織、人材づくりなど会社に変化を求めるも幹部との関係もぎくしゃく。大切なのは「やりかたより考え方」。経営理念を初めとして一つ一つ自分で成文化して考え方を整理。具体的に描いて伝えることで未来が描ける。社員と、幹部と共に経営理念に参画してもらい未来を描き、会社をつくる。

中小企業が事業承継できるというのは大変恵まれたこと。事業承継する会社は社会へ、そして社員への責任を認識し、維持発展させなければならない。沢山の支えてくれている人達への愛情に報いる為に経営者は最大限の努力をして今後も愛され続ける企業として継続していかなければならない。